

News Letter



ウグイスの雄
体のサイズはスズメ大、
雌は雄より小さい。



近所の公園は、冬の方が賑やかだ



さえずるウグイス
体を伸ばし、尾をピンと
立て、体を震わせながら
さえずる。

左右の円内の写真は、
望遠鏡にデジタルカメラ
をつけて撮影しました。

近所の公園は、お気に入りの散歩コースだ。地上ではツグミが「ガサッ、ガサッ」と木の葉をひっくり返し、頭上ではアトリの群れが「キョキョキョ」と鳴き、シジュウカラやヤマガラは羽音を立てて目の前を横切る。冬の公園は賑やかだ。笹藪の中から「チャッ、チャッ」と力強い鳴き声する。足を止め、耳を澄まし、目を凝らす。「カサッ、カサッ」という音、笹の葉が少し揺れている。揺れた笹の根元には、「ウグイス(鶯)」がいる。

そのあまりにも有名な鳴き声で、ウグイスは昔から日本人に親しまれてきた。鶯豆、鶯餅、鶯谷、ウグイス嬢と、その名が付く言葉は身近に多い。昔の人は、ウグイスを俳句に詠んだり、飼ってさえずりを楽しんでいたり、なんとその糞で肌を磨いていたという。驚くなかれ、ウグイスの糞入り洗顔剤は美白効果があるとして、今日でも売られている。



ウグイスの粉
26g、980円で売られている。効果の程は如何に。

ウグイスは日本全国に一年中生息する小鳥である。さえずりは派手であるが、容姿は地味で目立たない。そのうえ笹藪のある草木の生い茂った場所を好むため、見つけることは難しい。春から夏にかけて、雄はさえずりながらなわばりを構え、なわば

春告げ鳥 ウグイス



体の色は、わずかに緑色味を帯びた茶褐色。
よくメジロと間違われる。

りに入ってきた雌と繁殖する。夏とともに繁殖は終了し、冬に雪が降るような寒い地方の個体は暖かい地域や低地へ移動して越冬する。冬は、庭や公園の植え込みに潜んでいることが多く、気付かないだけで、じつは身近な鳥となる。雄雌ともに、冬はもっぱら「チャッチャッ」と鳴く。

4月から9月にかけての繁殖期に、隣接してなわばりを構える雄9羽の行動を観察したことがある。雄は、さえず

りながら忙しそうになわばり内を巡回していた。さえずる場所はいつも決まっていた。たいてい笹藪から少し高くなった低木の枝先だった。小さな体から発せられる声は驚くほど大きく、青々と茂った林によく通った。

この誰もが知っている「ホーホケキョ」というさえずりは、じつは雄一羽一羽で違っているという。慣れれば声を聞いただけで、どの雄がさえずっているのか分かるのだそう。ウグイスのさえずりは何度も聞いたことがあったが、今まで一羽一羽の鳴き声が違うとは思ったこともなかった。しかし、いざ観察を始めるとさえずりの違いは明らかで、「ホーホケキョ」、「ホーホキョ」、「ホーキョロン」という具合に9個体見事に異なって聞こえた。「ウグイスは皆「ホーホケキョ」と鳴くもの」という勝手な思い込みのせいで、聞こえているはずの違いに気付いていなかったのだ。「思い込み」や「知識」は、私たちの感覚に大きな影響を与えている。それらを意識して取り払ってみると、今まで全く気付くことのなかった生き物の姿を、目にし耳にすることができることを知った。

2月28日、2月26日。昨年、一昨年のウグイスのさえずり初確認日(いずれも千葉県)である。別名「春告げ鳥」と呼ばれるウグイス。春は、すぐそこまで来ている。

(東京本社自然環境調査室・津田朋香)

目次

エッセイ	春告げ鳥 ウグイス	1
調査	ヨシ群落復元モニタリング調査	2
マンガ	調査員物語	4

Reports	第5回河川環境展レポート	5
研究紹介	東京都のコウモリ	6
	ある日のフィールドノートから 捕虫網を持って街へ	8